

新ひだか町の畜産農家、Aさんが育てる牛たち。

黒毛和種の生産が道内でも増えている

=2024年10月8日（中島聰一朗撮影）



The chart displays the annual meat production value for the top three prefectures in Japan from 2003 to 2023. The Y-axis represents the value in billions of yen, ranging from 0 to 1400. The X-axis shows the years 2003, 05, 10, 15, 20, and 23. Three series are plotted: Hokkaido (dark red), Kagoshima (light blue), and Miyazaki (yellow). All three prefectures show a general upward trend over the period.

Year	北海道 (Hokkaido)	鹿児島 (Kagoshima)	宮崎 (Miyazaki)
2003	550	600	450
2005	600	700	550
2010	550	700	500
2015	1000	900	600
2020	1050	1100	750
2023	1200	1200	850

ところが22年と23年は、物価高を受けて消費者が比較的安価な鶏肉、豚肉を購入する動きが強まり、和牛の価格が急落。農畜産業

取り始めた1960年以降、63年連続でトップを維持していた。

農業産出額は各都道府県の品目ごとの生産状況や市場価格の動向などが読み取れる統計で、生産量に農家からの出荷時の価格をかけて算出する。鹿児島県の肉用牛飼養頭数は30万頭台で推移。50万頭台の北海道よりも少ないが、価格の高い黒毛和種の割合は北海道が3割程度なのに対して9割以上を占め、産出額は統計を

農林水産省がまとめた2023年の農業産出額によると、北海道の肉用牛産出額は前年比21億円増の124億円となり、20億円減の1208億円だった鹿児島県を抜いて初めて全国1位になった。鹿児島県で多く生産される黒毛和種の価格低下に加え、飼料代高騰などで酪農経営が厳しさを増す北海道で乳牛のホルスタインに肉牛を産ませるケースが増えたことが背景にある。

道産肉牛 產出額 1 位

**23年
1224億円
鹿児島抜く**

交配や飼養管理向上

生乳減産受け收入多角化

「入飼料が高騰する中、道内は牧草地や農地が広大で、いろいろなバリエーションの自給飼料を確保でき、品質の良い牛の生産につながっている」と説明。23年の産出額が1位になったことで、今後、道産肉用牛への注目度がさらに高まる」と期待する。

猛暑、飼料価格の高騰などから、生乳の減産傾向が続く。このため酪農家が乳牛に黒毛和種の受精卵を種付けし、産まれた子牛を販売して酪農経営の収入源にするケースが増えている。

農水省によると、23年2月1日時点の北海道の肉用牛飼養頭数は56万6400頭と5年前の18年同期比8%増だが、黒毛和種は20万2900頭と同13%増えた。

日高管内新ひだか町で肉牛を生産販売する A サン(67)は「北海道は肉用牛生産の歴史は浅いが、交配や飼養管理などの生産技術が急速にレベルアップして

振興機構(東京)によると、21年度の全市場平均で1頭約74万円だった黒毛和種の子牛の価格は、22年度は約64万円、23年度は約55万円となつた。これにより、鹿児島県の産出額が低迷した。

順位変動は北海道の酪農経営の変化も影響している。道内は黒毛和種よりも価格の安いホルスタインの価格など肉用の乳牛の飼養頭



年 組 名前

道新で
ワークシート

- ① 北海道の肉用牛産出額が鹿児島県を抜いて初めて全国1位になった。

記事を読み、その背景を、鹿児島県の産出額が低迷した理由と北海道の酪農経営の変化の面から説明しなさい。

- ② 品質の良い牛の生産につながっている「北海道の強み」とは何か、記事から読み取りなさい。